

2025 年度 児童福祉部 事業報告



目次

はじめに	
I 各園の重点課題に基づく取り組み報告 1.認定こども園モモ 2.認定こども園ピノ 3.保育園ナナ	1～3
II 2025年度児童福祉部 「評価の再構築と事業展開の検討」	4～5
III 事業の実績 1.園児数計画 目標と実績の比較 2.研修実施状況 3.会議・打ち合わせ・連絡会 4.訓練の実施 5.保護者アンケートの実施	6～8

はじめに

近年、子どもを取り巻く社会環境は急速に変化し、保育ニーズは一層多様化しています。慢性的な保育士不足や働き方改革への対応といった課題も顕在化しており、質の高い教育・保育の提供と働きやすい職場環境の整備を両立させながら、地域に必要とされる園づくりを進めていくには、継続的な運営努力が求められています。

児童福祉部では、2025年度も各園が自立しながら専門性を高め合うことを目指し、園ごとに抽出した重点課題（目標）に取り組みました。また、新たに導入した評価指標を用いての自己評価を通して、児童福祉部としての組織像をより明確にしていく必要性が、次年度の重要な課題であることを確認しました。

今後も、社会変化に柔軟に対応した持続可能な園運営を目指し、今年度の取り組み結果を踏まえた改善を図りながら、3園が連携して質の高い教育・保育、職場環境づくり、地域への貢献に努めて参ります。

I. 各園の重点課題に基づく取り組み報告

1. 認定こども園モモ

重点課題①「子ども理解」

●振り返りと公開保育

・保育の基本は「子ども理解」である。子どもの発達を踏まえ、一人一人の背景やその場の姿から得られる「子ども理解」をクラス内で共有するため、各クラスの振り返りをより充実させた。子どもの姿から多くの

事実を拾い上げ、それをどのように解釈するかによって、設定するねらいや手だては大きく変わるためである。その取り組みの一環として、全クラスで園内公開保育を実施した。さらに、外部参加者を招いた公開保



育も行い、客観的な視点から保育を振り返る機会を設けた。他者からの視点は、私たち自身が気づきにくい盲点を明らかにする貴重な機会となっている。

重点課題②「安全」

●環境整備と訓練

・環境整備や各種訓練は計画通り実施できた。しかし、訓練を通して、報告やヒヤリハットの共有において迅速さが不足していることが明らかになった。そこで、職員を複数のグループに分け、「危機管理に関するワーク」を実施した。ワークで見えてきた課題は職員間で共有し、その後の訓練計画にも反映させてきた。とはいえ、まだ改善の余

地は大きい。今後も訓練や安全点検に加え、ワークを継続しながら、子どもたちが暮らす環境を自ら考え、主体的に整えられる保育者の育成をしていく。

重点課題③「子育て支援」

●在園の保護者支援と地域の保護者支援

・在園の保護者を対象とした「面談月間」では、保護者の子育て観を知る機会となるとともに、子どもの育ちを共有する場として機能した。

これにより、保護者理解が進んだ手ごたえを感じている。

・2月よりこども誰でも通園事業を開始した。地域の子育て家庭からの問い合わせは多く、一定の需要があるものの、現状では受け入れ枠に余裕がない状況である。

・一時保育は、積極的に受け入れることができた。

・広場への参加だけでなく、問い合わせや見学時の雑談の中で子育ての悩みや相談を受けることもあり、こうした気軽なやりとりが保護者支援につながっていると考えられる。



重点課題④「職員の資質向上」

●園の保育の質と保育者の質

・保育者がより広い視点で子どもや環境を捉えられるよう、目指す保育像について考え、意見を交わす園内研修の機会を拡充した。

・日々の業務を見直し、「業務の効率化」をテーマにしたワークも実施した。職員の意見を丁寧に拾い上げ、次年度の事業計画に生かせるよう取り組んだ。

2. 認定こども園ピノ

重点課題①「コミュニケーションの活性化」

●対話のための空間と時間の確保、目標の共有

- 空間の確保については、空き教室を休憩や打ち合わせに活用できたものの、子どもの午睡時間中の活動スペースとして使用する必要があり、持続的な運用には至らなかった。
- 目標の共有では、クラスや部署単位の目標は共有できたが、個人目標の共有については目的が十分に浸透しておらず、一人ひとりが安心して意見を出し合える環境づくりを、今後さらに整えていく必要があることが分かった。



全体会議で各部署の目標を園全体で共有した

重点課題②「子どもをみる感覚を養う」

●保育中の気づきの共有、子どもとの遊びの充実、動画ワークや外部講師による研修の実施等

- 外部講師による研修は、「選べるサポート～支援保育の理解～」 「子どもの食事研究所～摂食研修～」 「発達体操」など、園の課題に沿って計画した内容をすべて実施した。
- 気づきの共有や遊びの充実については、日々の業務の中で振り返る機会を十分に設けられず、取り組みを深めきれなかった。
- 理念への理解をさらに深めることが、次年度の重点課題の土台となることを共有した。



重点課題③「暮らしが豊かになる園環境づくり」

●ピノの畑プロジェクト、屋内外での遊び（学び）の充実等

- これまで畑を借りて行っていた芋づくり等を、テラスでの実施に移行した。日々の中で栽培物に心を寄せる子どもたちの姿があり、「作物をより身近に感じ、自分たちの暮らしの一部として受けとめてほしい」という当プロジェクトの目的が達成されたと評価できる。
- 特に米作りでは、粳の発芽から苗づくり、植え付け、収穫、脱穀、精米、炊飯に至るまで全工程を体験し、子どもにとって豊かな実体験となった。
- テラスにある植物の種類が増え、身近な作物の存在を意識できる環境があることで、日々の遊びの中でも自然物を使った活動を楽しむ姿が増えていった。
- 今後は、テラスに適した植物の選定を進めながら、さらに自然との関わりを深められる環境づくりに取り組んで行く。



●その他の活動



7月 幼保小連携担当による保育参観と協議



6月、10月 防災連携園合同研修



11月 防災連携園 炊き出し訓練

3. 保育園ナナ

重点課題①「子どもの姿を語る」

●子ども理解の研修を通して見えてきたこと

今年のテーマを『語りあい』とし、振り返りや研修を通して職員同士が子どもの姿を語り合える機会を作りあげていった。公開保育では、ひとり一人の今の育ちを共有し、個々の取り組みを見出していくことができた。一方で、職員同士の異なる勤務時間により、朝・夕の担当職員との情報共有や時間の確保が十分でなかったことが課題となった。今後どのような形で『語り合い』ができるかを検討し、改善していきたい。

重点課題②「対話的な関わりの中で、互いの存在を大切にし、共に学び合えるチーム作り」

今年は、体験的な研修（手仕事・読書会・唄の集い等）を取り入れ、職員全員で実践することができた。人と集い、手を動かし、何かが出来上がっていくプロセスは成果物が見えるため、一緒にできた喜びや語り合う楽しさを実感できたように感じる。その中で、自然と会話も弾み、互いの存在を高め合う機会となっていった。また研修で得たことを日々の保育に活かすことで、学びがより深まり、実りあるものとなった。



3園合同外部講師の食事研修



防災連携園での合同研修



⇒ 『ナナのこどもの日』にて応急処置実践

重点課題③「人として育つための土台作り」

●ナナのこども日に向けて『感覚器官』の学び直しによる子どもの育ち

今年度の「ナナのこどもの日」に向けては、感覚器官を育む必要性への理解を深めるため、7つの感覚（触覚・臭覚・味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・固有覚）の中で培われるもの、日々の保育の中で実践していることなどを職員間で話し合い、考える機会を作っていた。

また当日は、保護者の方への発信だけでなく、参加型とし、掲示した子どもたちの育ちの姿について、どのような感覚が育まれているかを一緒に考えていただく場を設けたことで、育ちを共有するよい機会となった。



・『ナナのこどもの日』感覚器官の掲示と体験コーナー ・園庭での卒園児や保護者同士の交流

課題④「地域とともに歩む園づくり」

●地域へ根付くために必要なこと

今年度より園庭開放を始めるが、地域の方への宣伝力が足りず、参加者はなく、地域の方とのつながりを広げるには至らなかった。地域の方をお誘いできたのは、ベビーマッサージと『ナナのこどもの日』のみであり、次年度は、宣伝力を高めて取り組み、地域貢献に努めたい。



オリープナナ入居者の方と足湯で交流

II. 2025 年度 児童福祉部

評価の再構築と事業展開の検討

1. 評価の再構築～新評価指標の運用～

児童福祉部では、園の自己評価が日々の実践と結びつけられた振り返りとなるよう、今年度は評価の視点を独自に整理した「評価指標」を用いて自己評価を実施した。

【評価項目】

- ・基本事項 …保育の計画・記録等
- ・子ども理解 …日々の振り返り、公開保育、保育内容等
- ・安全 …環境整備、事故防止・安全対策、災害への備え
- ・子育て支援 …在園保護者への支援、地域の子育て支援
- ・職員の資質向上…研修、実習受け入れ、職場環境等

★0＝取り組めていない
 ★1＝取り組みはじめた
 ★2＝取り組み不十分
 ★3＝取り組みが継続できている
 ★4＝達成した

【評価結果】

●認定こども園モモ

評価項目	結果
基本事項	★★★
子ども理解	★★★
安全	★★★
子育て支援	★★★
職員の資質向上	★★★★★

●認定こども園ピノ

評価項目	結果
基本事項	★★★
子ども理解	★★★
安全	★★★
子育て支援	★★★
職員の資質向上	★★★

●保育園ナナ

評価項目	結果
基本事項	★★★
子ども理解	★★★
安全	★★★
子育て支援	★★
職員の資質向上	★★★

課題と展望

自己評価が形骸化しないように作成した指標であったが、結果として、評価を次の改善へつなげる「方向性の共有」ができていないという課題が明らかになった。そこで次年度は、組織として目指す姿と現在地を把握するための「組織像」を作成し、評価結果を改善につなげる仕組みづくりを進める。

2. 事業展開の検討～地域の居場所づくり～

地域にとって必要な役割を見つめ直し、児童福祉部としての今後の方向性について検討を進めてきた。その中で、「居場所づくり」が今後の事業展開を考える上でのキーワードとなった。1月には、3園の職員が「かながわ福祉大学校体験講座～子どもも高齢者も、誰でも。安心して暮らし続けるまちを、デザインしよう！」に参加し、2月からは研修参加者による意見交換や、新たな取り組みに向けた打ち合わせの場を設けている。各園がこれまで培ってきた保育の質と専門性を活かしながら、次年度は子育て広場の共同開催を足掛かりとして、新たな活動をスタートさせる予定である。

＊＊私たちの考える「居場所」づくり

少子化に伴い、地域で子どもが集うイベントやお祭りが減少してきました。また、核家族化が進み、出産や子育てを気軽に相談でき、助けを求められる関係性の希薄さが加速しています。そして、他者や自然に対しても利己的な考えで生きている人が多くなりました。

こうした状況の中で私たちは、子どもや保護者が抱える悩みや不安に寄り添いながら、専門職・専門機関・地域のさまざまな資源とつながるお手伝いができる場をつくりたいと考えました。その場は、子どもと直接関わる機会のない人も含め、誰もが気軽に集える開かれた場所にしたと思っています。その場で大切にしたいのは、一人ひとりの選択や気持ちりが尊重され、自分の生活や人生を自分らしく形づくっていけるという実感です。

私たちは、子どもも保護者も、そこに集うすべての人が安心して思いを語り合える“あたたかな場”を育てていきたいと考えています。

そして、互いに支えあい、他者の喜びが自分の喜びになるような子育てや場をつくり、その中で感覚体験の重要性や具体的な手立てを伝え、子育てや生きることに喜びを感じられるようにしていきたいと考えます。

その思いを実現するために、地域の子どもたちやご家庭が、いつでもふらりと立ち寄れる“ほっとできる居場所”をつくることに取り組んでいきます。子育ての喜びも悩みも分かち合いながら、地域みんなでゆるやかにつながり、育ち合える場を育てていきたいと願っています。

2025年度 各園の子育て広場の様子



ピノの子育て広場で芋ほり体験を開催した際は「土に触れられる機会が貴重で嬉しかった」という感想が寄せられました。親子で安心して参加できる体験の場を求める声は多く、また、在園児とのふれあいや、参加者同士がおしゃべりする中で生まれる子育て情報の交流が、広場をよりあたたかな場にしていて感じます。



モモの子育て広場では、園庭解放や手作りのおもちゃの講座を定期的に行っています。

「いつもの生活がちょっぴり楽しくなるヒントをいつもいただけてました。また来たいなと思っています。

・・・育児の助けの場はいつでもあたたかで励まされました。モモに出会えてうれしかったです。豊かな時をありがとうございました。」という感想が寄せられています。

Ⅲ. 事業の実績

1. 園児数計画 目標と実績の比較 2026.3.31 時点

3月31日時点での、3園の平均達成率は99%を超えたが、運営上は「年度内のどの時点で目標人数を確保できるか」が重要であり、年度途中の転園・退園等により計画の見直しを要する場面も生じた。

●認定こども園モモ

【2号・3号定員】

年齢 (定員)	0歳 (名)	1歳 (名)	2歳 (名)	3歳 (名)	4歳 (名)	5歳 (名)
目標	10	12	14	18	18	19
実績	8	14	14	17	17	19
達成率	80%	117%	100%	94%	94%	100%

【1号定員】

年齢 (定員)	3歳 (名)	4歳 (名)	5歳 (名)
目標	1	1	2
実績	1	1	2
達成率	100%	100%	100%

●認定こども園ピノ

【2号・3号定員】

年齢 (定員)	0歳 (11名)	1歳 (13名)	2歳 (14名)	3歳 (14名)	4歳 (14名)	5歳 (14名)
目標	9	11	13	13	12	12
実績	9	10	14	13	12	12
達成率	100%	91%	108%	100%	100%	100%

※1号定員無し

●保育園ナナ

【2号・3号定員】

年齢 (定員)	0歳 (6名)	1歳 (7名)	2歳 (6名)
目標	6	7	6
実績	6	7	6
達成率	100%	100%	100%

2. 研修実施状況

結果：計画通り実施

認定こども園モモでは、処遇改善加算(区分3)の要件に備え、キャリアアップ研修の計画的受講に取り組み、要件以上の受講者数を達成した。



【分類別・延べ参加人数】

区分		実施回数	延べ人数
園内研修 外部講師による研修含む	認定こども園モモ	40	295
	認定こども園ピノ	18	132
	保育園ナナ	38	219
園外研修 他機関主催の研修・講座等	認定こども園モモ	71	183
	認定こども園ピノ	79	96
	保育園ナナ	29	33
自主研修	認定こども園モモ	29	120
	認定こども園ピノ	17	61
	保育園ナナ	8	21
年間総数		329	1160

3. 会議・打ち合わせ・連絡会

●会議

結果：計画通り実施

- 全体会議 年4回
- 代表者会議 年12回
- 給食会議 年12回
- ケース会議（ピノ・ナナ）適時
- CD会議（モモ）
- クラス会議 各クラス年12回
- 事業計画作成会議（ピノ）年1回



総括

- ・各園の状況に応じてメンバー構成や開催頻度を柔軟に設定し、会議の実効性を高めた。
- ・各会議では、目的に沿った情報共有や課題の共有、改善策の検討、職員間の認識統一を進めた。
- ・全体会は土曜日に実施し、モモとナナは連携して保育体制を調整することで全職員が参加できる環境を整えた。ピノは土曜保育と並行しての実施となるため全員参加は難しいものの、交代で保育に入るなどの工夫により、可能な限り検討に参加できる体制を確保している。

●打ち合わせ・連絡会

結果：ほぼ計画通り実施

- ★（業務推進会議モモ・ピノ）年12回
- ☆（主幹連絡会モモ）年12回
- 園長相談日（モモ）月2～4回
- ケース相談日（モモ）月2～4回
- 医ケア連絡会（モモ）随時
- 連携園連絡会（モモ・ナナ）乳児・幼児 各年2回
- 非常勤連絡会（ピノ）年2回

総括

- ・今年度も、関係者・担当者同士がリアルタイムに情報や課題を共有できる「打ち合わせ・連絡会」の仕組みを運用した。議事録作成を伴う正式な会議だけでは拾いきれない日々の変化や困り感、調整事項を共有し、連携がより円滑に進むようになっている。
- ・認定こども園ピノでは、非常勤連絡会を乳児・幼児ごとに行う時間確保が難しく、全体で年2回の実施となった。2回目の連絡会では、職場環境改善に向けて非常勤職員の視点から活発な意見が出され、昨年度から継続してきた成果が見られた。

●児童福祉部会議

結果：計画通り実施

総括

- ・3園の園長・主幹（モモ）が参加する児童福祉部会議は、法人本部の運営会議に次ぐ児童福祉部の最上位会議体として、3園の運営方針の決定と方向性の確認を担っている。
- ・事業継続の検討と並行して、2月には会議後に地域の居場所づくりに関わるメンバーとの意見交換の場を設けた。

4. 訓練の実施

結果：計画通り実施

- 火災・地震避難訓練 年12回
- 初期消火器訓練含む 年1回
- 非常用滑り台体験（モモ） 年1回
- 放送設備・心肺蘇生 各年1回
- 防犯訓練 年2回
- アレルギー誤食訓練 年1回

5. 保護者アンケートの実施

（取り組み例）

- ・懇談会後は、意見や感想を記入してもらったツールとして連絡帳を活用
- ・保育参加、保育者体験、保護者参加行事は毎回アンケートを配布
- ・3園のこどもの日に合わせて「2025年度保護者アンケート」を実施

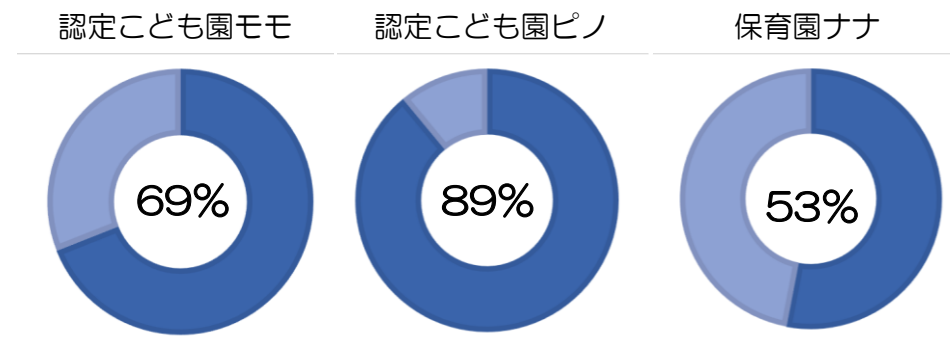
●保護者アンケート

対象：保護者

実施時期：9月～10月

方法：Googleフォーム

回答率



総括

- ・自由記述では、服装・持ち物・行事・連絡体制など日々の運営に関する具体的なご意見と提案が寄せられた。
- ・同時に、職員の関わりや子どもへの丁寧な保育に対する温かい評価や感謝の声も多数寄せられた。
- ・アンケート結果は園全体で共有し、次年度の計画に活かし、保育の質向上に努めていく。